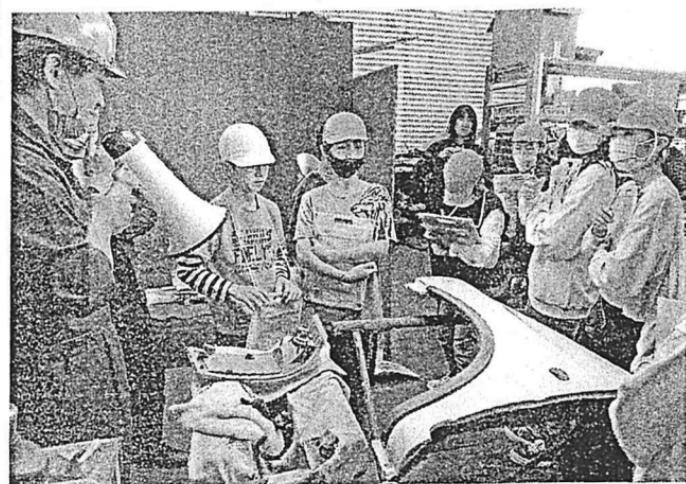


# 車の解体見学 热心に質問

朝一小5年生 山形オートリサイクルセンター訪問



鶴岡市の朝陽第一小学校  
(小澤敏一校長、児童54人)の5年生が1日、自

動車リサイクルを手掛ける  
山形オートリサイクルセン  
ター(酒田市広栄町二丁目、

伊藤雄一郎社長)を訪れ、  
自動車の解体やリサイクル  
について学んだ。

同社は1955年自動車  
中古部品の販売業として創  
業し、64年に自動車解体業  
に転換した。リユースバー  
ツ販売や金属原料のリサイ  
クルなど車の循環産業を行  
っている。地元の小・中学  
生を対象にした体験学習の  
提供のほか、交通安全団体  
への寄付活動など地域貢献  
に取り組んでいる。

この日の工場見学は社会

山形オートリサイクルセン  
ターの工場内を見学する朝  
陽一小の児童たち

科の一環として行われた。  
参加した5年3組の児童30  
人は社員から説明を受けな  
がら、エアバックを膨らま  
せる作動処理、特殊車両で  
の解体作業、リユース部品  
を保管する倉庫などを見学  
した。質疑応答では、児童  
が「一番大変な作業は何ですか」「1台の車を何人で

解体していますか」「一番  
重い部品、軽い部品は何で  
すか」など熱心に質問して  
いた。

児童の一人、早坂麻央さ  
ん(11)は「倉庫に部品がた  
くさん並んでいるのがすご  
いと思った。見学して車に  
興味が湧いた」と話してい  
た。

解体していますか」「一番  
重い部品、軽い部品は何で  
すか」など熱心に質問して  
いた。

この日、北村社長と池田  
田鶴岡支社長など3人が市  
役所を訪れ、北村社長が「ア  
ークベルは互助を大切にして  
さまざま形で社会貢献を  
続けてきた。使いやすい車  
椅子なので鶴岡市の福祉に  
役立ててほしい」、皆川治  
市長が「節目の年に寄贈い  
た」。

に活用してもらえば」と  
話した。